

## 理科（化学）

報告者 佐々木 主真

### 1 課題

本校では読解力の育成を学習指導の目標としている。読解力とは、OECDによると「自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するために、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考する能力」とであると定義されている。理科の学習における読解力は、科学的な文章を読み取る力、表やグラフを読み取る力、自分の考えを記述したり説明したりする力であるとした。本校では、教科書の文章を読み取って内容を整理し、自分の考えを言語化することが苦手な生徒が多く、一部の生徒は文章を読み取るための重要語句の習得が十分でない。

### 2 目標

【理科編 理数編】高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）の化学基礎では、「化学物質とその変化に関する基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的に探究する力を育成するとともに、化学と日常生活や社会との関わりを考えることができる」ことが目標として掲げられている。そのため、教科書を読み、説明できるようになることで、学習内容を正しく理解することに重点を置く。

### 3 具体的方策

生徒に教科書を読ませ、ワークシートの空欄に適語を記入させる。適切な語句を取り出して記入させることで、生徒の化学物質とその変化に関する基本的な概念や原理・法則への理解を促す。そこで、ワークシートの構成を工夫し、意味を理解しなければ適語を記入できないようにしておく。さらに、生徒に単元の内容を題材にした課題に取り組みせ、ワークシートに考えを記入させる。

### 4 結果

生徒が教科書の内容をよく読みながら、空欄補充に取り組む姿が見られた。教員側の口頭による説明に加えて、このような手法を取り入れることで、内容の理解を深められた。また、個人で考える時間や生徒どうしの話し合いの時間を設け、一方向の授業にならず、授業における集中力の持続にもつながっている。定期考査においても、基本的な語句や内容を問う問題では、高い正答率だった。

### 5 次年度に向けての課題

読解力については、短期間での評価が難しく継続した取り組みが重要であると感じた。そのため、一番身近な活字の本である教科書をしっかりと読む習慣をつけていく必要がある。教えてもらうばかりでなく、自分で読んで理解できるようになることで、より一層の学力の向上にもつながると考えられる。また、他の場面でもそのような機会を増やすことにより、さらに効果的な指導が期待される。